

ベトナムのコメ経済及びコメ輸出メカニズム

伊東正一

九州大学大学院農学研究院

2007年2月19日

はじめに

ベトナムのコメ輸出は 1980 年代における国内の大幅なコメ増産に支えられてスタートした。小規模で始まったコメ輸出は 1990 年代半ばには 300 万トン（精米換算）に達し、それまでコメ輸出ではタイに次いで 2 位の位置を占めていたアメリカを追い抜き、世界 2 位の座を安定的に占めるようになった。日本への輸出も一般 MA 米を中心に 10 万トンに達し（農林水産省、2006）、日本にとっても重要な供給国となりつつある。

ベトナムのような小さな国がどうしてこのようなコメ輸出大国になったのか、どのような政策によりコメ輸出は決定されているのか、今後の見通しはどうか…。本稿では、2006 年 11 月の現地調査及びその後の研究分析を踏まえ、ベトナムにおけるコメ輸出の基盤となる国内のコメ生産と消費を概観すると同時に、コメの輸出の現状、とりわけコメ輸出量の決定機関、及びそのメカニズムについて報告する。このコメ輸出のメカニズムについてはこれまで詳細が明らかにされていなかったが、今回の現地調査によってその構図をより明らかにすることができた。

さらに、ベトナムのコメ需給の今後の見通しについて推察する。ベトナムの経済はめざましい発展を遂げており、その一方でコメの消費形態は変化しつつある。アジアの各国が経済発展と共にコメ消費形態が変化し、結果として一人当たりコメ消費量が減少の傾向となっているが、ベトナムもその例に漏れず、一人当たりの消費量が減少しつつある。このような背景を認識しながら、現在そして今後のベトナムのコメ経済を診ていきたい。

1. ベトナムのコメ生産

1.1. ベトナム戦争後の生産量

ベトナムの 1960 年から 2006 年にまでに至るコメ関連データについて表 1.1 に示したが、ベトナムのコメ生産が急増を遂げ始めたのは 1980 年代初頭であった。1975 年にベトナム戦争が終結し、その後の動乱期を経たあとの増産だった。これは 1980 年代半ばで一時、頭打ちとなった。しかし、その後、1987 年から反収が大幅に伸び始め、その後の生産面積の増大とも重なって、生産量は急増していった（図 1.1）。

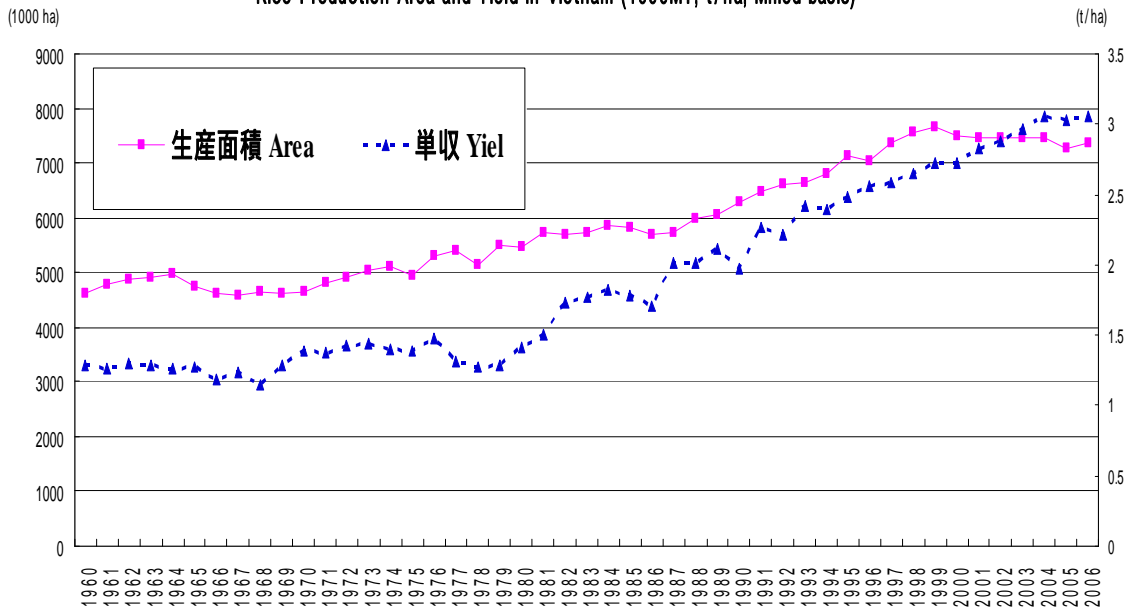
こうした 1980 年代終わりからの新たな増産への刺激となったのがドイモイ政策である。ドイモイ（刷新）政策は 1986 年の第 6 回党大会で決定され、農業においては 1988 年 4 月の党中央委員会第 10 号決議でもって、これまでの社会主義的協同組合農業を基本にしてきた農業システムから農地を農民世帯に配分した家族経営システムへの転換を指示した。ドイモイは国による統制の撤廃、自由な競争原理に基づく市場

表1.1 ベトナムにおけるコメの需給状況、1960 - 2006年

年度	生産面積 (1000ha)	単収 (ト/ha)	生産量 (1000ト)	輸出量 (1000ト)	輸入量 (1000ト)	消費量 (1000ト)	期末在庫量 (1000ト)	人口 (100万人)	1人当り 消費量 (kg/人)
1960	4,602	1.29	5,959	182	12	5,789	--	32	182.9
1961	4,763	1.26	6,018	90	52	5,980	--	33	182.9
1962	4,889	1.30	6,335	330	10	6,015	--	34	178
1963	4,902	1.28	6,255	60	20	6,215	--	35	177.9
1964	4,983	1.26	6,303	6	170	6,467	--	36	179.2
1965	4,759	1.27	6,066	13	449	6,502	--	37	174.5
1966	4,612	1.19	5,483	3	775	6,255	--	38	163
1967	4,566	1.24	5,647	2	703	6,348	--	40	160.9
1968	4,644	1.14	5,308	20	900	6,188	--	41	152.8
1969	4,630	1.28	5,925	18	1,075	6,982	--	42	168.1
1970	4,631	1.39	6,445	3	600	7,042	--	43	165.4
1971	4,807	1.38	6,646	3	910	7,553	--	44	173.2
1972	4,900	1.43	6,986	0	760	7,746	--	45	173.5
1973	5,030	1.44	7,231	0	865	8,096	--	46	177
1974	5,112	1.40	7,165	1	640	7,804	--	47	166.4
1975	4,940	1.39	6,850	2	805	7,653	--	48	159.2
1976	5,314	1.48	7,849	6	265	8,108	--	49	164.6
1977	5,409	1.31	7,075	5	71	7,141	--	51	141.3
1978	5,142	1.27	6,526	0	247	6,773	--	52	131.1
1979	5,483	1.28	6,993	33	200	7,160	--	53	135.9
1980	5,468	1.41	7,697	5	30	7,722	--	54	143.8
1981	5,722	1.50	8,605	15	150	8,740	--	55	159.2
1982	5,708	1.73	9,901	140	30	9,791	--	56	174.4
1983	5,742	1.77	10,145	83	322	10,384	--	57	180.8
1984	5,842	1.82	10,633	60	336	10,909	--	59	185.7
1985	5,825	1.78	10,371	125	482	10,728	--	60	178.5
1986	5,679	1.71	9,688	153	150	9,685	--	61	157.6
1987	5,732	2.01	11,502	97	11	11,416	--	63	181.7
1988	5,982	2.01	12,044	1,383	2	10,663	--	64	166.1
1989	6,053	2.11	12,771	1,670	0	11,101	--	66	168.5
1990	6,278	1.97	12,393	1,048	0	11,345	--	67	168.6
1991	6,490	2.26	14,638	1,914	0	12,724	--	69	185.4
1992	6,623	2.21	14,641	1,592	0	13,049	--	70	186.6
1993	6,643	2.42	16,049	2,264	0	13,785	--	71	193.5
1994	6,803	2.39	16,246	2,314	10	13,942	--	73	192.2
1995	7,124	2.48	17,683	3,040	1	14,394	250	74	195.1
1996	7,040	2.56	18,003	3,327	1	14,477	450	75	193.2
1997	7,377	2.59	19,094	3,776	0	15,000	768	76	197.2
1998	7,575	2.65	20,108	4,555	60	15,500	881	77	201.1
1999	7,660	2.73	20,926	3,370	40	16,000	2,477	78	204.9
2000	7,493	2.73	20,473	3,528	40	16,500	2,962	79	208.7
2001	7,471	2.82	21,036	3,245	40	17,000	3,793	80	212.5
2002	7,463	2.88	21,527	3,795	40	17,500	4,065	81	216.3
2003	7,468	2.96	22,082	4,295	300	17,850	4,302	82	218.2
2004	7,450	3.05	22,716	5,174	320	18,000	4,164	83	217.8
2005	7,265	3.03	22,000	4,800	350	18,250	3,464	84	218.5
2006	7,360	3.06	22,536	4,900	300	18,500	2,900	84	219.2

ソース:九州大学伊東研究室「世界の食料統計」(<http://worldfood.apionet.or.jp>)

図1.1 トナムにおけるコメの生産面積、単収
Rice Production Area and Yield in Vietnam (1000MT, t/ha, Milled basis)



ソース:伊東研究室ホームページ(九州大学);世界の食料統計(<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>), 2006年11月。

経済への移行、私的個別経営の確立、海外への市場開放、を実施したものである。また、1990年代には新しい「農地法」(1993年)が制定され、個別農家の農地利用が20年間となるなど、安定的な経営への要となった。また、個別経営を支えるための「ベトナム農業銀行」の設立(1990年)、農業普及機関の設置(1993年)など、が相次いだ。(長、2004年、p.16-19)

ベトナムの稲作は全国の農産物生産面積の60%(2001年)から55%(2005年)を占め、さらに、実際の作付け面積では、稲作が年2回から3回の作付けとなるため農産物全作付け面積の85%(2001年)、82%(2005年)を占める。それほどに重要な農産物となっており、「食料安全保障」の観点からも他の作物に類を見ない基幹作物となっている(MAES, 2006)。

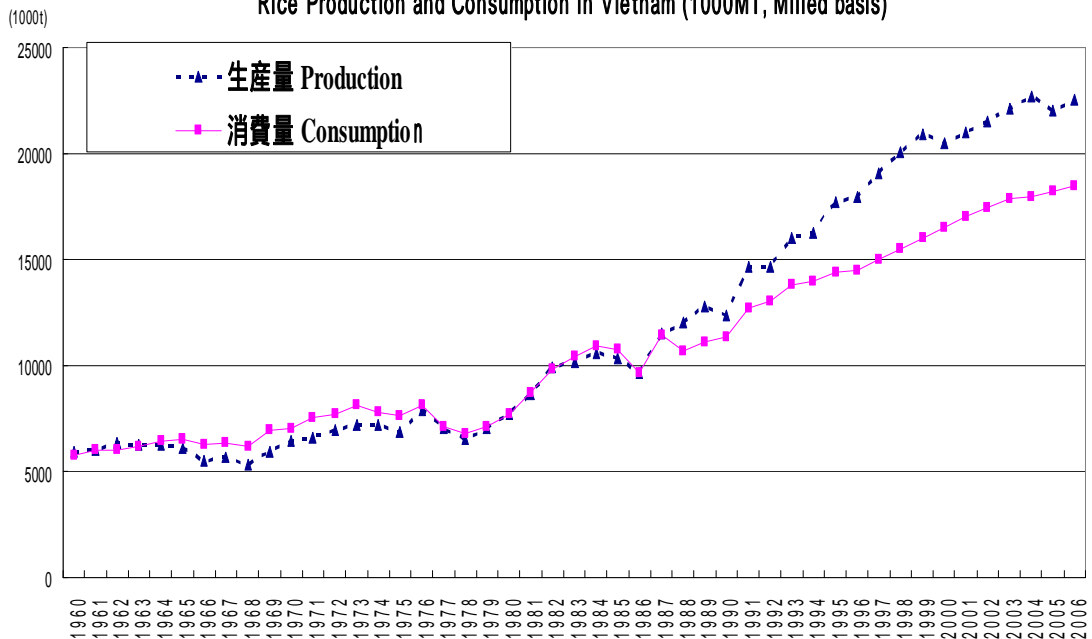
コメの増産では、1980年代における単収の増加率が著しい。80年代の10年間における単収の増加率は年4.23%、中でも1980年代後半ののびが顕著である(表1.2, 図1.2)。しかし、単収の伸びはそれにとどまらず、90年代においても同2.71%、2000年代も同3.30%という高い増加率を維持し、2006年には病害虫の被害を受けたにもかかわらず1ha当たり3.06トン(精米)の見通しである。その一方で、生産面積はベトナム戦争終結後から増大しており、1980年代及び1990年代はそれぞれ年率1.22%及び1.86%という伸びを示していた。2000年代に入り、生産面積はわずかながら減少傾向を示しているが、740万haに近い生産面積を維持している。

表1.2 ベトナムにおけるコメの生産・消費量、輸出量及び人口の増加率の変化('60 - '06)、%/

年度	生産面積	単収	生産量	輸出量	消費量	人口	1人当り消費量
1960年代	0.01%	0.57%	0.57%	-24.67%	2.03%	2.83%	-0.79%
1970年代	1.71%	0.34%	2.05%	8.24%	0.91%	2.36%	-1.43%
1980年代	1.22%	4.23%	5.50%	56.37%	4.06%	2.27%	1.76%
1990年代	1.86%	2.71%	4.60%	8.15%	3.48%	1.63%	1.83%
2000年代	-0.49%	2.00%	1.50%	7.96%	2.04%	1.11%	0.92%

注: 表1.1から算出。3年間移動平均により算出した。

図1.2 ベトナムにおけるコメの生産量と消費量
Rice Production and Consumption in Vietnam (1000MT, Milled basis)



ソース: 伊東研究室ホームページ(九州大学); 世界の食料統計 (<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>), 2006年11月。

コメの生産量は生産面積と単収の両方の伸びに支えられ、1986年のドイモイを境に安定的な増加となった。1980年代半ばでは1,000万トン前後(精米換算)だったものが、90年代初頭で1,500万トンに達し、1998年に2,000万トンを突破。わずか10年間余りで2倍に拡大した。生産量の伸びは80年代が年率5.50%、90年代が4.60%であった。その後も増産がつづき、2004年に史上最高の2,270万トンを記録した。近年において、こうした急速な増産、しかも20年近くに及ぶ息の長いコメの増産は世界でもまれである。

ベトナムのコメ生産は2005年と2006年においてこれまでの記録を更新するまでに至らなかった。2005年産は北部を中心に台風による洪水で減産を余儀なくされたが(MARD, 2006)、それでも2,200万トンを生産した。2006年産においては、市場価格も上昇しており、生産意欲も増大していたものの、害虫と病気が蔓延し、その被害

により史上最高を記録するまでには至っていない。

1.2. 2006 年産の病害虫による被害

2006 年産のベトナムの稲作はメコンデルタ地域を中心に大きな被害に見舞われた。この被害のため、ベトナム産米の輸出が部分的に禁止される事態となった（後述）。この病害虫による被害は、トビイロウンカが異常に発生したことによるものである。現地の関係者によると、「農村地帯で話しながら歩いていると口の中にウンカが入ってくる」と言うほどの異常発生であった。ハノイ農業大学で昆虫学が専門の Pham Van Dinh(ディン)教授はこの病害虫被害について次のように説明した。

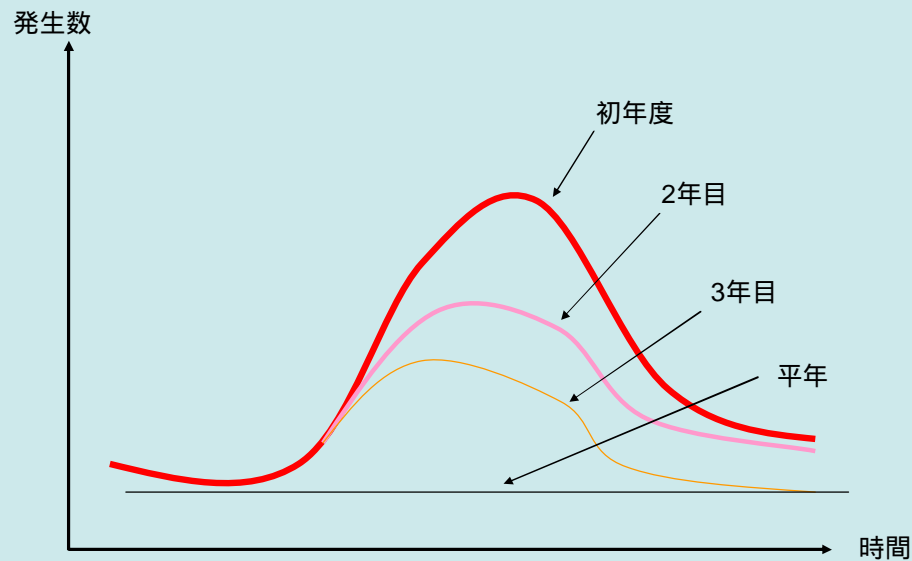
今回のウンカの発生は歴史的に見ると決して異常なものではない。害虫の被害は定期的にサイクルを持って発生しているが、今回のものもその一環だ。自然とのバランスが害虫をコントロールする意味で重要であるが、農家や農薬販売会社はそれを理解していない。今回のウンカの問題で重要なことはウンカがウィルスを持っていると言うことだ。このために害虫と一緒に病気が蔓延している。農薬が散布されているが、効果的な散布ではない。ウンカは根本の茎に生息しており、現在行われている農薬散布は表面的に穂の部分に散布されるだけで、農薬が根本のほうまで届いていない。根本に散布できるような機械を開発する必要がある。これは決して困難な開発ではない。

年 3 回の稲作付けはやりすぎだ。稲作は年 2 回に減らすべきである。残りの一期は他の作物に転換すべきである。そうすると害虫の多発も被害も押さえられる。さらに、ウンカに抵抗性のある品種をもっと開発すべきである。

ウンカの発生は 2008 年まで続くであろう。発生数は減少はしていくがすぐに収まるというものではない。よって、ベトナムのコメの減産は向こう数年間は続くであろう（図 1.3）。

以上が、ディン教授の説明である（2006 年 11 月 30 日、ディン教授の研究室でインタビュー）。この病害虫は南部を中心に広がっており、水田によっては 2 割の減収となっているところもあるようだが、正式に集計された報告はない。気になるのは、この被害が向こう数年間は尾を引くというディン教授の指摘である。もし、そうであれば、生産の回復は当分は見込めないということになる。

図1.3 害虫の発生数と経過年数との関係



ソース : Dinh(2006)

1.3. 新「5カ年計画」に見るコメ政策

ベトナム政府は2006年3月に新たに「2006年 2010年5カ年計画」(The Five-Year Socio-Economic Development Plan 2006-2010)を打ち出したが、これによると、今後のコメに対する方針は品質の向上を最大の目標として、生産面積は拡大しないというものである。原文では“increase high-quality rice for export without increasing rice-cultivating areas「訳：コメの生産面積を拡大せずに、輸出余のコメの品質を向上させる」”(p.64)としている(MPI, 2006)。具体的には、メコンデルタ(MRD地域)の水田180万haを維持しながら、このうち100万haにおいて輸出用の高品質米を生産するという。これまで、ベトナムの輸出用のコメはタイ産のものに比べ、品質が落ちることから、価格でも碎米含有率5%のものがタイ産米のそれに比べ1トン当たり20ドルから30ドルくらい安く取引されている。この差は小さくなりつつはあるものの、こうしたベトナム産米の国際的なデメリットを克服したいという政府の意向が伺える。また、インディカ米に比べ高価格で取引されているジャポニカ米に一部をシフトしたいという考えもあるようだ。

また、これまでのコメ輸出に於いてもメコンデルタ地域のコメが主に輸出に向けられていたことから、この100万haから得られる高品質米を輸出に向けると言うことは、1ha当たり約3.5トン(精米)とすると、メコンデルタ以外の地域からのものも含め約400万トン(精米ベース)前後で安定したコメ輸出を目指していると考えら

れる。

コメの収益性は他の作物に比べ低い。稲作 1ha 当たりの収益性は 2,500 万ドン(約 17 万円)程度の収入しかないが、果実では 3 - 4 千万ドン、エビの養殖では数億ドン (MARD, 2006) に達するため、コメの収益性の向上が大きな課題となっている。

また、収穫後のロスがベトナム全土のコメで 13%から 16%、これは東南アジア諸国の 10 - 37%と比較すると少ない方であるが、改善の余地は大きい (Buu, 2006)。この収穫後のロスは南部の MRD 地方で 13%、北部の RRD 地方で 10%とされている。

2010 年の生産見通しを政府・農業省 (MARD) は生産面積で 840 万 ha、生産量で 3,600 万トンから 3800 万トン (籾換算) と予測している。これを籾から精米の歩留まりを 60%とすると、精米換算で 2,200 万トンから 2,300 万トンの生産量となる。

1.4. コメの主要産地：メコン川流域 (MRD) と紅河流域 (RRD)

ベトナムのコメ生産は国のほぼ全域で行われているが、その中でも重要な地域がメコン川流域 (MRD) と紅河流域 (RRD) である。前者は国全体の生産量の 50% 余り、後者は同 20% を占めている (図 1.4, 表 1.3, 表 1.4, 表 1.5)。また、過去四半世紀のコメ増産を可能ならしめた理由の一つに灌漑事業がある。ベトナムは水田の灌漑施設がかなり整えられてきているが、1980 年代には年 2.9% で灌漑面積が増大、1990 年代においても同 4.6% で整備されていった。このため稲作の灌漑率は 80 年代当初の 40% から近年では 90% に達し、この中で、主産地である北部の RRD では 90%、南部の MRD では 70% の灌漑率となっている (Buu, 2006)。これは 1990 年代半ばにおいて RRD が 80%、MRD が 40% のレベル (Young, et al., 2002) であったことに比べると、急速な勢いで灌漑事業が進められてきたことになる。Young ら (2002) によると、灌漑が施されている水田からのコメがベトナムのコメ生産の大半を占める、という状況であり (p.11)、こうした灌漑施設の整備はベトナムの安定したコメ生産に大きく貢献している。ただ、これで稲作における水管理が十分というわけではなく、一部においては海水の浸水問題 (Buu, 2006) さらには、雨季による洪水問題、乾季作における水不足などはまだ見られる (Young, et al., 2002)。

図1.4 ベトナムの地域区分地図



ソース：Young, et al. (2002, p.6) より引用、日本語は加筆した。

表1.3 ベトナム各省・地域におけるコメの生産量(初換算、1000トン)

	<i>thousand ton</i>										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	Preliminary 2005
ベトナム全体	24963.7	26192.0	27288.7	28919.3	31393.8	32529.5	32108.4	34447.2	34568.8	36148.9	35790.8
紅河デルタ地域	5090.4	5325.3	5638.1	5979.4	6383.4	6586.6	6419.4	6752.2	6487.3	6710.2	6199.0
ハノイ省 Hà Nội	177.1	191.0	187.7	200.2	207.6	224.6	194.0	204.7	203.2	200.6	192.3
ヴィンフー省 Vĩnh Phúc	217.2	219.1	242.8	262.7	274.5	327.0	298.2	345.0	357.6	364.5	350.6
バクニン省 Bắc Ninh	250.1	294.4	318.7	351.8	388.2	441.4	431.2	446.6	442.0	447.7	447.8
ハータイ省 Hà Tây	647.2	679.3	692.3	787.5	876.6	921.4	904.0	976.1	942.1	957.9	928.5
ハイズン省 Hải Dương	665.0	721.9	762.3	778.5	810.6	823.5	796.5	825.1	818.6	798.5	776.7
ハイフォン省 Hải Phòng	396.0	422.4	428.0	438.9	471.1	490.3	487.6	498.4	501.4	505.5	459.3
フンイエ省 Hưng Yên	394.8	428.2	453.4	474.0	509.3	530.0	506.9	530.6	529.6	519.1	507.7
タイビン省 Thái Bình	939.5	975.7	930.4	968.9	1059.8	1050.6	993.9	1081.6	930.7	1069.5	981.6
ハーナム省 Hà Nam	299.4	307.3	343.3	359.4	383.4	385.6	396.0	404.8	388.1	399.4	374.8
ナムディン省 Nam Định	787.3	809.1	904.4	952.2	973.8	965.6	970.7	983.4	946.2	987.0	782.6
ニンビン省 Ninh Bình	316.8	276.9	374.8	405.3	428.5	426.6	440.4	455.9	427.8	460.5	397.1
北東部山間地域	1457.6	1587.5	1711.8	1766.4	1911.3	2065.0	2249.9	2374.6	2475.3	2490.6	2537.7
ハーザン省 Hà Giang	81.9	89.0	95.6	99.9	109.8	121.4	130.8	137.1	146.0	150.0	153.3
カオバン省 Cao Bằng	92.4	84.1	91.8	91.3	98.4	88.0	99.8	98.6	104.6	104.0	106.6
バクカン省 Bắc Kạn	50.5	53.9	60.1	60.9	64.1	66.3	75.5	78.6	81.2	82.1	87.0
トゥエンカン省 Tuyên Quang	133.7	149.0	155.4	169.4	177.1	184.5	229.7	220.5	244.3	247.3	248.8
ラオカイ省 Lào Cai	82.5	87.7	87.3	94.4	103.9	113.0	122.1	125.1	136.9	111.0	117.5
エンバイ省 Yên Bái	120.7	129.6	127.8	127.8	143.7	150.5	155.6	160.2	167.9	171.9	169.4
タイゲン省 Thái Nguyên	179.4	205.6	220.4	225.4	248.1	265.5	286.7	310.9	313.5	314.4	323.8
ライソン省 Lạng Sơn	128.5	132.8	154.0	152.6	149.3	144.7	179.1	178.1	190.7	191.7	195.4
クワンニン省 Quảng Ninh	116.7	134.9	145.8	152.4	160.0	176.0	185.9	199.5	214.2	215.9	214.9
バックザン省 Bắc Giang	287.7	335.6	369.1	376.2	416.3	472.8	475.5	520.4	525.9	552.2	558.9
フーター省 Phú Thọ	183.6	185.3	204.5	216.1	240.6	282.3	309.2	345.6	350.1	350.1	362.1
北西部山間地域	328.9	315.9	345.6	332.3	372.2	403.6	440.7	457.5	488.1	548.8	546.2
Điện Biên										122.8	127.2
ライチョウ省 Lai Châu	100.8	98.3	106.1	107.0	122.6	131.6	139.6	141.6	154.7	83.6	93.8
ソンラ省 Sơn La	99.4	101.0	110.0	100.6	99.4	108.1	112.1	119.2	128.6	134.1	131.0
ホアビン省 Hoà Bình	128.7	116.6	129.5	124.7	150.2	163.9	189.0	196.7	204.8	208.3	194.2
中北部沿岸地域	2140.8	2035.5	2495.5	2316.3	2634.6	2824.0	2966.9	3156.0	3221.1	3377.8	3165.8
ティンホア省 Thanh Hoá	848.4	708.1	981.6	972.7	1061.3	1095.8	1190.4	1252.5	1272.5	1325.9	1233.4
ゲアン省 Nghệ An	572.4	529.3	656.6	608.1	634.3	753.6	781.1	836.5	840.1	880.6	821.8
ハーティン省 Hà Tĩnh	308.5	316.1	358.7	305.6	377.8	395.7	414.1	446.1	462.6	485.2	454.5
クワンビン省 Quảng Bình	123.9	154.1	151.2	121.6	169.9	191.1	191.7	206.1	207.3	225.2	221.5
クワンチ省 Quảng Trị	121.0	141.0	150.8	120.7	175.3	191.3	184.8	203.9	202.8	214.3	199.6
トゥアティエン-フエ省 Thừa Thiên-Huế	166.6	186.9	196.6	187.6	216.0	196.5	204.8	210.9	235.8	246.6	235.0

表1.3 ベトナム各省・地域におけるコメの生産量(初換算、1000トン)・・・つづき

	<i>thousand ton</i>										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	Preliminary 2005
中南部沿岸地域	1415.0	1566.8	1579.9	1564.5	1703.7	1681.6	1707.1	1711.0	1878.2	1890.8	1774.8
ダナン省 Đà Nẵng	53.8	58.5	57.3	51.6	53.9	52.2	52.2	49.2	49.8	47.8	41.8
クアンナム省 Quảng Nam	308.4	335.4	331.6	332.0	344.7	329.9	330.4	343.8	381.1	384.0	366.9
クアンガイ省 Quảng Ngãi	251.9	301.1	289.1	305.9	334.9	311.7	305.5	329.5	365.4	362.5	363.8
ビンディン省 Bình Định	402.3	439.2	447.5	437.7	504.7	523.0	546.5	517.1	557.9	570.3	536.2
フーエン省 Phú Yên	256.6	273.4	281.9	268.7	289.2	277.6	280.6	294.5	318.2	324.3	321.1
カインホア省 Khánh Hoà	142.0	159.2	172.5	168.6	176.3	187.2	191.9	176.9	205.8	201.9	145.0
中部高地地域	429.5	427.3	485.6	436.6	512.4	586.8	646.2	606.6	748.1	781.4	714.5
コントゥム省 Kon Tum	40.9	41.2	44.9	42.3	44.8	51.8	56.6	59.5	61.9	67.4	66.5
ザライ省 Gia Lai	115.9	121.1	129.2	126.9	148.5	175.1	200.2	196.8	226.8	222.0	231.3
ダクラク省 Đắk Lắk	191.9	197.3	215.1	172.5	220.4	257.8	272.8	248.5	330.2	307.1	237.8
Đắk Nông											
ラムドン省 Lâm Đồng	80.8	67.7	96.4	94.9	98.7	102.1	116.6	101.8	129.2	138.6	129.8
南東部地域	1269.8	1114.9	1182.2	1205.2	1581.5	1679.2	1680.7	1679.7	1742.7	1782.1	1618.3
ニントゥアン省 Ninh Thuận	125.2	123.9	137.7	131.0	160.3	145.7	135.2	138.3	137.9	157.6	81.9
ビントゥアン省 Bình Thuận	209.2	231.4	254.8	274.7	279.1	321.5	335.3	330.3	334.9	346.8	334.8
ビンフック省 Bình Phước	38.2	34.7	40.3	31.2	34.1	29.6	33.2	35.2	38.8	39.8	36.8
タイニン省 Tây Ninh	307.9	370.2	391.6	394.4	507.3	530.3	538.2	576.4	626.4	642.0	582.7
ビンドン省 Bình Dương	74.1	67.4	68.9	67.6	70.7	66.6	66.5	66.9	67.5	66.1	57.8
ドンナイ省 Đồng Nai	217.9	223.4	232.3	236.1	234.5	270.3	280.4	284.3	302.2	296.6	323.9
ハリアン省 Bà Rịa-Vũng Tàu	60.1	63.9	56.6	70.2	69.9	79.9	82.7	71.5	72.7	74.1	69.6
ホーチミン市 TP. Hồ Chí Minh	237.2	204.7	235.2	226.2	225.6	235.3	209.2	176.8	162.3	159.1	130.8
メコンデルタ地域	12831.7	13818.8	13850.0	15318.6	16294.7	16702.7	15997.5	17709.6	17528.0	18567.2	19234.5
ロンアン省 Long An	1015.8	1181.2	1240.6	1400.5	1522.8	1573.3	1626.2	1738.6	1772.8	1902.7	1934.3
ティエンザン省 Tiền Giang	1191.6	1227.1	1319.7	1319.9	1301.7	1301.1	1287.6	1285.3	1268.0	1315.3	1303.2
ベンツェ省 Bến Tre	319.3	352.7	319.2	338.4	327.0	357.3	379.7	392.1	381.0	368.1	341.4
チャヴィン省 Trà Vinh	647.4	678.7	714.0	744.0	839.2	944.7	902.3	1005.9	1045.6	1033.9	1028.9
ヴィンロン省 Vĩnh Long	861.6	885.2	873.8	969.5	966.0	941.0	911.2	963.3	936.4	963.6	975.3
ドンタップ省 Đồng Tháp	1616.5	1720.0	1748.9	1930.0	2076.2	1878.5	1963.6	2178.7	2214.9	2420.9	2596.4
アンザン省 An Giang	1892.5	1971.5	1980.5	2044.6	2100.0	2177.7	2113.4	2593.7	2686.3	3006.9	3127.7
キャンザン省 Kiên Giang	1462.4	1697.5	1692.2	1900.4	2026.2	2284.3	2188.0	2578.4	2489.6	2739.8	2944.3
カンター省 Cần Thơ	1710.7	1803.1	1713.0	1894.7	1979.6	1882.8	1954.4	2216.2	2142.4	1194.7	1233.7
Hậu Giang											
ソクチャン省 Sóc Trăng	1088.1	1150.4	1181.2	1381.5	1507.5	1618.0	1525.7	1642.8	1610.2	1526.1	1634.2
バクリュー省 Bạc Liêu	494.3	554.8	517.5	677.4	804.6	893.5	727.0	694.1	627.9	614.4	654.1
カマウ省 Cà Mau	531.5	596.6	549.4	717.7	843.9	850.5	418.4	420.5	352.9	404.1	351.8

Data source: General Statistics Office of Vietnam. 省名は、長(2004)に倣った。

表1.4 ベトナム各省・地域におけるコメの単収(籾換算、100kg/ha)

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	0.1 ton /ha Preliminary 2005
ベトナム全体	36.9	37.7	38.8	39.6	41.0	42.4	42.9	45.9	46.4	48.6	48.9
紅河デルタ地域	44.4	28.2	28.1	32.6	54.6	54.3	53.4	56.4	54.8	57.8	54.4
ハノイ省 Hà Nội	31.6	34.9	34.4	37.1	38.5	41.4	37.1	39.2	40.0	42.3	42.7
ヴィンフー省 Vĩnh Phúc	30.1	32.3	34.0	35.5	38.2	43.7	42.2	46.7	48.2	50.0	50.4
バクニン省 Bắc Ninh	31.7	37.1	39.2	42.7	46.9	52.5	51.3	53.5	53.6	55.4	56.1
ハータイ省 Hà Tây	38.5	41.5	41.6	47.0	52.3	54.6	53.6	58.0	56.6	58.3	57.2
ハイズゥン省 Hải Dương	44.8	48.7	51.3	52.8	55.2	55.8	54.9	57.9	58.5	58.8	58.3
ハイフォン省 Hải Phòng	42.3	44.9	45.0	46.3	49.5	51.1	51.1	53.0	54.4	56.2	52.0
フンイエ省 Hưng Yên	44.2	48.0	50.7	53.0	56.8	59.1	56.8	59.8	60.7	60.7	61.5
タイビン省 Thái Bình	55.5	57.5	54.5	56.4	61.6	60.7	57.4	63.0	54.6	63.4	58.7
ハーナム省 Hà Nam	41.1	42.3	46.6	48.4	51.1	51.1	52.4	53.9	52.0	54.1	51.8
ナムディン省 Nam Định	48.2	49.6	54.8	57.5	58.8	58.1	58.7	59.9	58.0	61.3	49.4
ニンビン省 Ninh Bình	39.5	41.1	46.3	49.7	52.1	51.4	52.9	55.3	52.2	56.6	49.6
北東部山間地域	28.6	22.9	22.7	22.9	37.3	40.0	40.3	42.2	43.7	44.7	45.7
ハーザン省 Hà Giang	28.0	29.8	32.4	33.6	37.0	38.9	40.9	41.4	42.6	42.9	43.4
カオバン省 Cao Bằng	27.7	30.3	32.1	32.1	33.4	30.7	34.2	34.0	35.5	35.1	35.4
バクカン省 Bắc Kạn	28.1	30.3	33.0	33.6	34.6	35.3	38.5	38.9	40.8	40.0	41.8
トゥエンカン省 Tuyên Quang	33.2	36.7	37.3	39.1	41.1	41.5	49.8	47.8	52.0	53.3	54.6
ラオカイ省 Lào Cai	24.9	27.1	26.9	28.4	29.3	31.0	33.2	34.7	37.1	39.9	41.4
エンバイ省 Yên Bái	31.4	33.4	32.6	30.3	36.4	37.6	38.4	39.5	40.9	41.5	41.0
タイゲン省 Thái Nguyên	30.3	32.3	33.7	34.4	38.0	38.7	41.3	44.1	44.5	45.0	46.2
ライソン省 Lạng Sơn	28.3	29.0	32.6	33.1	32.8	30.7	36.5	37.3	39.3	38.8	39.5
クワンニン省 Quảng Ninh	25.9	29.2	30.8	32.3	34.0	36.4	38.1	40.5	43.5	44.6	45.5
バックザン省 Bắc Giang	26.2	30.3	32.7	32.9	36.4	41.1	41.3	44.5	45.4	47.6	49.0
フウター省 Phú Thọ	26.2	28.0	29.6	30.7	35.8	39.4	43.4	47.3	47.6	48.2	49.5
北西部山間地域	24.5	23.5	26.0	25.8	28.0	29.5	31.6	32.7	35.0	36.3	35.8
Điện Biên										31.0	31.8
ライチョウ省 Lai Châu	21.3	20.4	23.3	23.2	24.8	25.4	25.5	25.4	27.6	29.2	30.9
ソンラ省 Sơn La	22.8	22.7	24.9	23.4	23.7	26.0	27.6	30.3	33.4	34.4	33.5
ホアビン省 Hoà Bình	29.6	28.0	30.0	31.6	36.2	37.8	42.7	43.7	45.6	47.4	45.0
中北部沿岸地域	31.4	29.7	36.1	34.2	38.9	40.6	42.3	45.1	46.4	49.3	47.0
ティンホア省 Thanh Hoá	33.9	28.2	38.5	38.3	42.0	42.6	46.2	48.7	49.6	52.1	48.9
ゲアン省 Nghệ An	30.4	28.6	34.9	33.0	36.0	40.3	41.3	44.4	44.9	48.3	45.6
ハーティン省 Hà Tĩnh	28.8	29.2	32.8	29.8	35.6	36.9	38.2	41.3	44.2	47.5	46.2
クワンビン省 Quảng Bình	27.2	32.7	32.6	27.4	36.2	41.4	40.2	43.1	43.7	46.6	46.0
クワンチ省 Quảng Trị	28.6	32.6	34.6	28.3	39.2	41.7	39.4	43.3	42.8	46.0	44.5
トゥアティエンフエ省 Thừa Thiên-Huế	34.4	37.8	39.2	37.7	42.4	38.3	39.7	40.6	45.6	48.1	46.6

表1.4 ベトナム各省・地域におけるコメの単収(初換算、100kg/ha)・・・つづき

	0.1 ton /ha										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	Preliminary 2005
中南部沿岸地域	33.5	36.2	36.8	36.8	39.2	39.8	41.2	42.8	46.0	47.1	47.9
ダナン省 Đà Nẵng	40.1	43.6	42.4	42.0	44.2	46.6	47.0	48.2	52.4	53.1	52.3
クアンナム省 Quảng Nam	29.0	31.7	31.3	32.4	33.5	34.9	37.1	39.1	43.7	44.4	43.5
クワンガイ省 Quảng Ngãi	28.8	33.6	32.1	34.9	37.5	36.0	38.5	40.6	45.5	48.2	49.0
ビンディン省 Bình Định	33.9	35.4	36.7	36.4	40.0	41.2	42.4	43.6	44.3	45.5	48.3
フーエン省 Phú Yên	43.6	47.2	50.3	44.2	48.6	48.1	47.2	50.5	53.8	54.5	55.1
カインホア省 Khánh Hoà	37.4	37.5	40.8	41.0	39.3	41.0	41.5	40.9	44.4	44.3	42.3
中部高地地域	24.4	21.9	22.1	22.0	30.8	33.2	35.7	32.5	38.6	39.5	37.5
コントゥム省 Kon Tum	21.2	21.8	23.5	22.4	23.2	24.8	26.6	28.6	29.5	30.1	28.7
ザライ省 Gia Lai	21.1	22.3	22.4	22.9	26.6	29.6	32.7	31.3	35.5	34.9	36.0
ダクラク省 Đắk Lắk	} 27.8	32.1	34.9	29.3	37.3	40.3	41.5	35.8	44.5	47.5	41.5
Đắk Nông											
ラムドン省 Lâm Đồng	26.8	31.6	30.5	30.2	31.0	31.2	35.9	30.3	37.1	39.3	38.5
南東部地域	28.3	27.7	26.7	27.2	30.5	31.9	33.3	34.7	36.4	37.5	38.7
ニントゥアン省 Ninh Thuận	41.5	41.7	43.6	43.7	45.3	42.9	42.1	45.6	42.7	46.5	47.9
ビントゥアン省 Bình Thuận	32.0	32.5	33.7	35.1	31.8	34.5	36.8	37.8	39.3	39.3	41.6
ビンフック省 Bình Phước	15.3	15.8	16.9	16.2	18.0	18.6	23.5	23.3	25.0	25.7	25.4
タイニン省 Tây Ninh	24.2	25.9	28.1	27.9	29.9	30.5	32.2	34.8	37.2	39.4	40.3
ビンヅン省 Bình Dương	24.6	25.7	26.6	26.2	27.2	26.7	27.4	28.1	28.7	29.0	30.7
ドンナイ省 Đồng Nai	32.3	32.0	32.7	32.0	30.1	33.0	34.5	35.4	37.7	36.7	40.7
ハリアン省 Bà Rịa-Vũng Tàu	26.8	30.0	26.0	31.2	27.3	29.8	30.1	28.4	29.7	30.4	30.7
ホーチミン市 TP. Hồ Chí Minh	29.8	25.5	30.6	30.7	29.0	31.0	31.2	31.5	32.9	34.1	32.4
コンティン地域	40.2	40.1	39.8	40.7	40.9	42.3	42.2	46.2	46.8	48.7	50.3
ロンアン省 Long An	31.2	31.8	33.1	35.0	34.5	34.7	36.9	40.1	41.8	43.9	45.1
ティエンザン省 Tiền Giang	44.2	43.8	45.7	46.9	45.5	46.1	46.6	48.5	48.6	50.7	51.7
ベンツェ省 Bến Tre	34.4	36.1	32.3	33.6	32.3	35.2	37.7	39.4	39.9	40.7	40.9
チャヴィン省 Trà Vinh	38.2	42.6	35.5	35.4	36.1	39.9	37.5	42.7	44.3	43.9	44.3
ヴィンロン省 Vĩnh Long	41.8	42.2	44.1	42.4	43.1	45.1	42.1	45.9	45.2	46.3	48.0
ドンタップ省 Đồng Tháp	44.8	44.0	47.0	45.7	46.9	46.0	48.1	51.1	50.8	53.4	55.5
アンザン省 An Giang	48.3	47.3	47.7	47.6	45.4	46.9	46.0	54.4	53.3	57.5	59.0
キャンザン省 Kiên Giang	} 38.5	37.8	38.5	37.6	38.9	42.2	39.7	44.8	44.2	48.0	49.4
カンター省 Cần Thơ											
Hậu Giang										47.1	48.6
ソクチャン省 Sóc Trăng	39.5	35.9	35.7	40.2	42.3	43.7	43.7	46.3	46.1	48.4	50.8
バクリュー省 Bạc Liêu	38.0	39.7	34.0	39.7	39.1	41.1	40.8	40.9	41.7	44.7	46.3
カマウ省 Cà Mau	28.4	29.7	24.9	30.7	34.6	34.3	31.8	32.2	33.0	30.7	32.1

Data source: General Statistics Office of Vietnam. 省名は、長(2004)に倣った。

表1.5 ベトナム各省・地域における稲作の生産面積(1000ha)

	Thousand ha										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2004	2004	Preliminary 2005
ベトナム全体	6765.6	7003.8	7099.7	7362.7	7653.6	7666.3	7492.7	7504.3	7452.2	7445.3	7326.4
紅河デルタ地域	1193.0	1170.4	1197.0	1203.1	1202.8	1212.6	1202.5	1196.6	1183.5	1161.6	1138.8
ハノイ省 Hà Nội	56.1	54.8	54.5	54.0	53.9	54.2	52.3	52.2	50.8	47.4	45.0
ヴィンフー省 Vĩnh Phúc	72.1	67.9	71.4	74.1	71.8	74.8	70.6	73.9	74.2	72.9	69.6
バクニン省 Bắc Ninh	78.8	79.4	81.2	82.3	82.7	84.0	84.0	83.5	82.5	80.8	79.8
ハータイ省 Hà Tây	168.2	163.6	166.6	167.7	167.6	168.8	168.5	168.4	166.5	164.4	162.2
ハイズン省 Hải Dương	148.6	148.3	148.5	147.5	146.9	147.5	145.0	142.4	139.9	135.9	133.3
ハイフォン省 Hải Phòng	93.7	94.1	95.1	94.8	95.2	95.9	95.4	94.0	92.1	89.9	88.3
フンイエ省 Hưng Yên	89.4	89.3	89.4	89.5	89.6	89.7	89.3	88.7	87.3	85.5	82.6
タイビン省 Thái Bình	169.4	169.8	170.7	171.7	172.1	173.1	173.3	171.8	170.6	168.6	167.3
ハーナム省 Hà Nam	72.9	72.7	73.6	74.3	75.1	75.4	75.6	75.1	74.7	73.8	72.3
ナムディン省 Nam Định	163.5	163.1	165.1	165.6	165.7	166.2	165.3	164.1	163.0	161.0	158.3
ニンビン省 Ninh Bình	80.3	67.4	80.9	81.6	82.2	83.0	83.2	82.5	81.9	81.4	80.1
北東部山間地域	522.3	519.5	531.5	538.8	535.2	550.3	558.0	562.4	566.1	557.2	555.5
ハーザン省 Hà Giang	29.3	29.9	29.5	29.7	29.7	31.2	32.0	33.1	34.3	35.0	35.3
カオバン省 Cao Bằng	33.4	27.7	28.6	28.4	29.5	28.7	29.2	29.0	29.5	29.6	30.1
バクカン省 Bắc Kạn	18.0	17.8	18.2	18.1	18.5	18.8	19.6	20.2	19.9	20.5	20.8
トゥエンカン省 Tuyên Quang	40.3	40.6	41.7	43.3	43.1	44.5	46.1	46.1	47.0	46.4	45.6
ラオカイ省 Lào Cai	33.1	32.4	32.4	33.2	35.5	36.4	36.8	36.1	36.9	27.8	28.4
エンバイ省 Yên Bái	38.5	38.8	39.2	42.2	39.5	40.0	40.5	40.6	41.1	41.4	41.3
タイゲン省 Thái Nguyên	59.2	63.6	65.4	65.6	65.3	68.6	69.5	70.5	70.4	69.9	70.1
ライソン省 Lạng Sơn	45.4	45.8	47.2	46.1	45.5	47.1	49.1	47.7	48.5	49.4	49.5
クワンニン省 Quảng Ninh	45.1	46.2	47.3	47.2	47.1	48.4	48.8	49.2	49.2	48.4	47.2
バックザン省 Bắc Giang	109.8	110.6	112.9	114.5	114.3	115.0	115.2	116.9	115.8	116.1	114.0
フウター省 Phú Thọ	70.2	66.1	69.1	70.5	67.2	71.6	71.2	73.0	73.5	72.7	73.2
北西部山間地域	134.5	134.3	132.9	128.6	132.9	136.8	139.6	140.1	139.5	151.1	152.7
Điện Biên										39.6	40.0
ライチョウ省 Lai Châu	47.4	48.2	45.6	46.1	49.5	51.9	54.7	55.7	56.1	28.6	30.4
ソンラ省 Sơn La	43.6	44.5	44.1	43.0	41.9	41.5	40.6	39.4	38.5	39.0	39.1
ホアビン省 Hoà Bình	43.5	41.6	43.2	39.5	41.5	43.4	44.3	45.0	44.9	43.9	43.2
中北部沿岸地域	682.2	684.3	692.0	677.5	677.9	695.0	701.2	700.4	694.7	685.5	674.1
ティンホア省 Thanh Hoá	250.4	251.2	254.7	253.8	252.9	257.5	257.6	257.2	256.4	254.6	252.2
ゲアン省 Nghệ An	188.2	184.9	187.9	184.2	176.4	186.8	189.1	188.3	187.1	182.5	180.2
ハーティン省 Hà Tĩnh	107.2	108.4	109.3	102.6	106.0	107.3	108.3	108.1	104.7	102.2	98.3
クワンビン省 Quảng Bình	45.6	47.1	46.4	44.4	46.9	46.2	47.7	47.8	47.4	48.3	48.1
クワンチ省 Quảng Trị	42.3	43.2	43.6	42.7	44.7	45.9	46.9	47.1	47.4	46.6	44.9
トゥアティエンフエ省 Thừa Thiên-Huế	48.5	49.5	50.1	49.8	51.0	51.3	51.6	51.9	51.7	51.3	50.4

表1.5 ベトナム各省・地域における稲作の生産面積(1000ha)・・・つづき

	Thousand ha										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2004	2004	Preliminary 2005
中南部沿岸地域	422.5	433.2	429.7	424.6	434.8	422.5	414.0	399.5	408.3	401.1	370.2
ダナン省 Đà Nẵng	13.4	13.4	13.5	12.3	12.2	11.2	11.1	10.2	9.5	9.0	8.0
クアンナム省 Quảng Nam	106.2	105.9	105.9	102.5	102.9	94.5	89.0	88.0	87.3	86.4	84.3
クアンガイ省 Quảng Ngãi	87.5	89.5	90.0	87.6	89.2	86.5	79.4	81.2	80.3	75.2	74.2
ビンディン省 Bình Định	118.5	124.0	122.0	120.3	126.1	126.9	128.8	118.5	125.8	125.4	111.1
フーエン省 Phú Yên	58.9	57.9	56.0	60.8	59.5	57.7	59.5	58.3	59.1	59.5	58.3
カインホア省 Khánh Hoà	38.0	42.5	42.3	41.1	44.9	45.7	46.2	43.3	46.3	45.6	34.3
中部高地地域	173.2	156.1	170.0	164.7	166.0	176.8	180.8	186.6	193.9	197.9	190.7
コントゥム省 Kon Tum	19.3	18.9	19.1	18.9	19.3	20.9	21.3	20.8	21.0	22.4	23.2
ザライ省 Gia Lai	54.8	54.3	57.6	55.5	55.8	59.2	61.2	62.8	63.9	63.7	64.3
ダクラク省 Đắk Lắk	} 69.0	61.5	61.7	58.9	59.1	64.0	65.8	69.4	74.2	64.6	57.3
Đắk Nông											
ラムドン省 Lâm Đồng	30.1	21.4	31.6	31.4	31.8	32.7	32.5	33.6	34.8	35.3	33.7
南東部地域	447.3	463.3	466.0	464.8	518.8	526.5	504.6	483.9	478.9	475.2	418.1
ニントゥアン省 Ninh Thuận	30.2	29.7	31.6	30.0	35.4	34.0	32.1	30.3	32.3	33.9	17.1
ビントゥアン省 Bình Thuận	65.3	71.2	75.6	78.3	87.7	93.1	91.1	87.3	85.3	88.2	80.5
ビンフック省 Bình Phước	25.0	22.0	23.8	19.3	18.9	15.9	14.1	15.1	15.5	15.5	14.5
タイニン省 Tây Ninh	127.3	142.8	139.3	141.4	169.5	174.0	167.3	165.6	168.3	162.8	144.6
ビントゥン省 Bình Dương	30.1	26.2	25.9	25.8	26.0	24.9	24.3	23.8	23.5	22.8	18.8
ドンナイ省 Đồng Nai	67.5	69.9	71.1	73.8	77.9	81.9	81.2	80.4	80.1	80.9	79.5
ハリア・ブソク省 Bà Rịa-V ng Tàu	22.4	21.3	21.8	22.5	25.6	26.8	27.5	25.2	24.5	24.4	22.7
ホーチミン市 TP. Hồ Chí Minh	79.5	80.2	76.9	73.7	77.8	75.9	67.0	56.2	49.4	46.7	40.4
メコンデルタ地域	3190.6	3442.7	3480.6	3760.6	3985.2	3945.8	3792.0	3834.8	3787.3	3815.7	3826.3
ロンアン省 Long An	325.7	371.3	374.5	400.1	441.2	453.1	440.9	433.3	424.1	433.4	429.2
ティエンザン省 Tiền Giang	269.3	280.2	288.7	281.5	286.4	282.4	276.1	265.0	260.8	259.4	251.9
ベンツエ省 Bến Tre	92.7	97.7	98.8	100.8	101.1	101.6	100.8	99.6	95.5	90.5	83.5
チャヴィン省 Trà Vinh	169.3	159.2	200.9	210.0	232.6	237.0	240.4	235.8	236.2	235.6	232.5
ヴィンロン省 Vĩnh Long	206.0	209.8	198.1	228.5	224.2	208.6	216.3	209.8	207.0	208.1	203.1
ドンタップ省 Đồng Tháp	361.0	390.8	371.9	422.6	442.7	408.4	408.3	426.4	436.4	453.0	467.7
アンザン省 An Giang	391.8	417.2	415.0	429.2	462.9	464.4	459.1	477.2	503.9	523.0	529.7
キャンザン省 Kiên Giang	380.3	449.6	439.7	505.9	521.3	541.0	550.6	575.9	563.0	570.3	595.8
カントー省 Cần Thơ	} 401.8	405.8	389.4	433.7	466.6	413.4	441.1	456.6	453.4	229.9	231.9
Hậu Giang											
ソクチャン省 Sóc Trăng	275.6	320.2	330.7	343.6	356.5	370.4	348.8	354.9	349.6	315.2	321.6
バクリュー省 Bạc Liêu	130.0	139.8	152.0	170.7	205.9	217.3	178.1	169.8	150.4	137.3	141.3
カマウ省 Cà Mau	187.1	201.1	220.9	234.0	243.8	248.2	131.5	130.5	107.0	131.6	109.7

Data source: General Statistics Office of Vietnam. 省名は、長(2004)に倣った。

2. ベトナムのコメ消費

アジア諸国のコメ消費は経済成長と大きく関連している。一般に、コメを主食としているアジア各国の食生活は経済成長と共に欧米化し、また、都市化による住民の都市への移動でコメの消費が減少する傾向にある。このため、アジアのコメが下級財化し、一人当たりのコメ消費量が経済発展と共に増加のあとピークに達し、その後は減少する傾向が広く見られる (Ito, et al., 1989)。こうした傾向は Ito らが報告した 1980 年代から顕著に見られ現在も継続しており、ベトナムもその流れの中にあり、これから一人当たり消費量が減少してくるものと推察される (伊東ら、2006)。

ベトナムの経済成長は著しく、GDP (国内総生産) では 2001 年以降は 2002 年の 4.4% を除いて、7% 台の成長が続き、2006 年及び 2007 年は 8% 台の成長が見込まれている (VVG Economic Indicator, 2006) (表 2.1)。一方、物価の上昇は比較的落ち着いており、2000 年及び 2001 年のデフレを経て、2002 年からは 3% 前後の上昇となっている (表 2.2)。2005 年には 5.3% を記録し、2006 年は 10 月までの記録では 3% 台となっており、2007 年も 4% 程度で推移する見通しである。

表2.1 ベトナムにおけるGDP成長率、%

1995	9.54
1996	9.34
1997	8.8 / 8.2
1998	5.8 / 4.0
1999	4.8
2000	6.75/5.5
2001	7.1/ 7.0/4.75
2002	4.4
2003	7.25
2004	7.7
2005	7.5
2006 (e)	8.2
2007 (f)	8.5

V V G: Economic Indicators

表2.2 ベトナムにおけるインフレーション、%

1994	14.4
1995	12.7
1996	4.5
1997	3.8
1998	9.2
1999	0.7
2000	-0.5
2001	-0.3
2002	2.9
2003	3
2004	2.7
2005	5.3
2006	-

V V G: Economic Indicators

こうした経済成長を背景にコメの消費は全消費量で見ると、2002 年まで一人当たりの消費量は上昇を続けてきたが、2003 年以降は足踏み状態で、この付近がピークに達していることを伺わせている。今後は、中国が 1990 年代にそうであったように、着実な減少傾向をたどることが予想される。要はいつから減少を始め、そのスピードはどれくらいになるかである。中国は 1990 年代当初は年 0.3% くらいの減少率であったが、近年は 2% あまりの減少率を示しており、その減少のスピードが極めて速くなっている。

ベトナムでもこのままで経済成長が続けば、畜産物や水産物、野菜、果実などの消費が拡大し、主食となっているコメなどの炭水化物は消費が押さえられる傾向となる。このことは、これまで日本や台湾、シンガポール、韓国などが経験しており、ベ

トナムも決してその例外とは言えない。ただ、人口の増加率が2000年代も1.1%のレベルを維持しており、一人当たり消費量が1.1%以上の減少率を見ない限り、つまり、人口の増加率を絶対値で一人当たり消費量の減少率が上回らない限り総消費量が減少することはない。しかし、表1.2でみるように、人口の増加率は小さくなりつつあり、また、一人当たりコメ消費量の増加率も2000年代は1%の大台を割り込み年0.92%となっている。さらに、近年の数年間で見ると、一人当たり消費量（国内の全消費量）は220kg弱（精米換算）のレベルで横ばいとなり、ほとんど伸びていない。よって、これまでの消費量の増加率がいずれ0%となり、その後はマイナスとなるのも時間の問題であろう。

3. ベトナムのコメ輸出

3.1. コメ輸出の推移

ベトナムのコメ輸出は1960年代から1980年代後半までほぼ皆無であった。ベトナム戦争時代にはコメの輸入は毎年80万トンから100万トンが輸入されており、戦争終結後は生産が増加したものの消費がそれ以上に増えたため、輸入の圧迫から解放されることはなかった。1980年代前半においては年間20万トンから30万トンが輸入されていた。

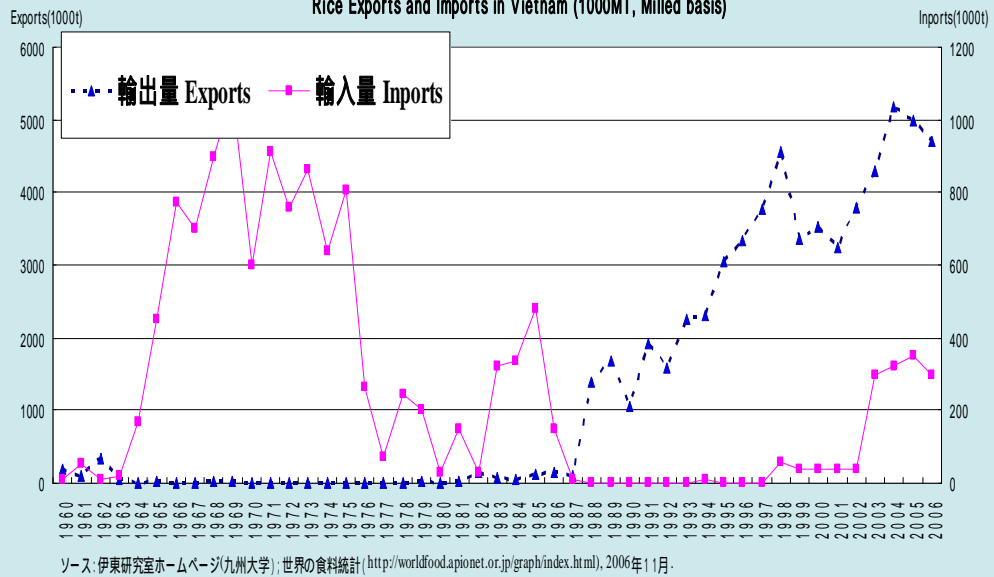
しかし、ドイモイ政策が実施されてからはコメの増産に拍車がかかり、また、多様な面から食料生産が増大し、その一方でコメ消費の伸び率は緩んできた。このため、コメは輸出に向けられ、1998年には460万トン（精米換算）に達し、その後一時は減少したものの、2004年には500万トンの大台を突破した（図3.1）。今や、コメ輸出ではタイに次いで世界第2位の地位を築いている。輸出量はこの10年間で2倍に増大した形であり、その後の2年間の輸出量は多少の減少は見たものの、500万トンに近い数値で推移している。

ベトナム産米の日本への輸出は、1990年代半ばにSBS方式により日本産品種米や碎米がわずかに輸入されるようになった。その後は一般MA米でも長粒種・精米が輸入されるようになり、近年ではその輸入量は年間約10万トンに達している。

3.2. コメ輸出の国内自由化

ベトナム政府はコメ輸出に対して輸出税と輸出相手国ごとに割り当てる輸出クォータの両面から規制をしていた。コメの輸出税は1989年の段階では5%、その後は3%に引き下げ、1995年の一時的な措置で3%に引き上げたものの、翌96年には再び1%に戻し、その後は輸出税は課せられなくなった（佐藤・冬木、2000年）。（ただ、Young, et al.は2002年に発表した論文においてコメ輸出には「2%」の関税をかけていると

図3.1 ベトナムにおけるコメの輸出量と輸入量
Rice Exports and Imports in Vietnam (1000MT, Milled basis)



している (p.23))

また、輸出クォータ(割当制度)も 1998 年までは存在し、許可を受けた輸出会社が割り当てに応じて輸出をしていた。特に、年度当初に年間の輸出見込み量の 7 割を各社に割り当て、残りの 30%を年度の終わりに割り当てる、という方法をとっていた (Young, et al, 2002 年)。しかし、この割当制度は 1998 年を最後に課せられなくなり、1999 年からは各コメ輸出業者の輸出量は言わば “早い者勝ち” の制度になった (Hue, 2006; Que, 2006)。割当制度は 2001 年に正式に廃止された (CEG, 2004, p.39)。また、この割当制度が廃止されると同時に輸出税も廃止された (Que, 2006)。

コメ輸出を希望する会社には許可証が発行されるが、これが現在では登録制となっているので、コメの取引は国内、国際共にほぼ全面的に自由になっている。それだけに、競争原理がコメの取引では強く働くことになる。2006 年 11 月のように、コメの輸出規制が発動されると (後述) 状況は異なるが、そうでない限り、日常のコメ取引活動では業者も極めて自由に商売を営んでいる。コメの輸出に於いても、国営企業だけでなく、プライベートな企業、あるいは外国資本の企業もコメ輸出に参画しており、そのような企業も業務に対して政府からクレームが付けられることはない (フェニックス・コモディティ社 (ホチミン市)) という状況である。

3.3. コメ輸出量の決定メカニズム

3.3.1. コメ輸出の関連機関

農業省（Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD)）は国内の稲作に関して、生産から消費まで、そして、農家の生活状況まで含め、農業・農村生活の広範囲を担当している、稲作に関しては最も重要な省である。全国各地に事務所を構え、稲作に関しては収穫予想量も含め、常に情報を収集している。

商務省（Ministry of Trade (MOT)）は英語の正式名からすると「貿易省」となるべきところであるが、以前は「Ministry of Commerce」と呼ばれていたことから、今なお「商務省」と一般には呼ばれている。コメ輸出に於いては MOT は深く関与し、税関を掌握していることから輸出量の管理・確認をする立場にもある。

ベトナムコメ輸出協会(Vietnam Food Association、VFA)はコメ輸出関連（コメ輸出会社や精米業者など）の大小約 100 企業をメンバーとするコメの輸出の一括管理を行っている組織である。1989年に Vietnam Food Import -Export Association（ベトナム食料輸出入協会）として、ベトナムでは最初の協会として設立され、その後は改名し現在に至っている。国営企業（State - Owned - Enterprise , (SOE)）である大手の VINAFOOD2（南部地域）や VINAFOOD1（北部地域）を始め、コメに携わる大小の SOE や個人企業がメンバーとなっている。メンバーの数は近年は急増している。政府からの援助は全くなく、メンバーの年会費、及び、大企業からの寄付金で運営費をまかなっている。その会員会社の数は大小 98 社を数える（2005 年現在）。このうち、コメ輸出では大手 25 社がその大半を握っているという。

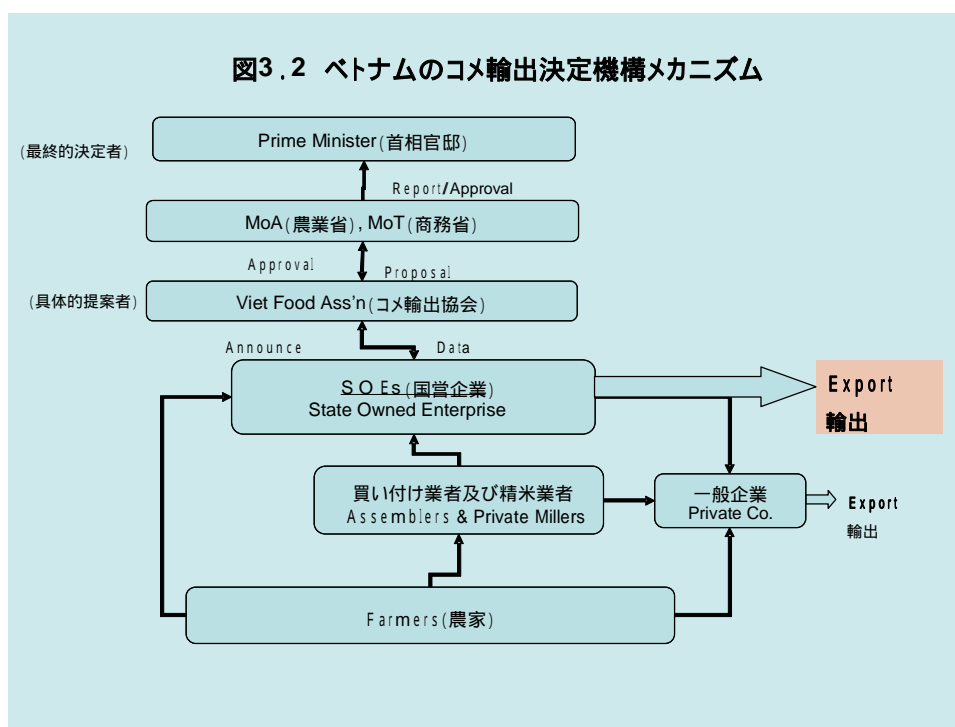
VFA はコメ輸出の元締めとなる重要な組織にもかかわらず、ホーチミン市の第 3 区の通りの一角にひっそりと居を構えている。職員数は 6 - 7 人ほどで、50 平方 m ほどの平屋建ての建物に、大会議室、それに小部屋が二つ。それだけである。世界第 2 位のベトナムのコメ輸出を担当している部署としては、とても慎ましい佇まいである。VFA は 17 人からなる運営理事会で通常の業務は管理している。この理事会を毎月開催し、総会は理事の任期が 5 年となっているので、少なくとも 5 年に一回の開催となっており、毎年開催されるわけではない。2006 年 7 月に総会が開催されたが、その前の総会は数年前に開催された。次の総会の開催日は未定である。

ベトナムのコメ輸出の取扱い量は VFA のメンバー企業で 98% を占めている。それだけにメンバー各社同士での競争が激しい。このため、VFA では海外市場の開拓や情報提供など（Hai, 2002, p.101）と共にメンバー相互の融和を図ること（Hue, 2002）も重要な任務としている。

3.3.2. コメ輸出量の決定及び管理メカニズム

年度需給計画の策定

コメの輸出に於いては、コメの年間需給計画が策定され、その中でコメの輸出量が決定出される。ベトナムのコメ年度は暦と同じで1月から12月期である。年度当初にMOT(商務省), MARD(農業省), 及びVFA(ベトナムコメ輸出協会)がそれぞれにデータを持ち寄って当年度の需給計画を検討する。MARDは全国各地に存在する事務所(主に農業生産部局と統計部局)を通じて生産コストや収量などのデータを収集する。MOTは輸出量や市場価格などのデータを、また、VFAは農業地帯に散在するコメ輸出業者から収集した情報を持ち寄る(図3.2)。この中で、VFAはメンバーの企業がコメ生産現地に最も近いところに存在し、農村地帯の情報をよく集めていること、また、海外の情報も豊富に入手しており、この3者会合に於いては民間ながら重要な位置を占めている(Hue, 2006)。



*** 以上は、MARDとVFAからの聞き取り調査であるが、MARDとVFAの説明は多少の異なりがある。MARDの説明ではMARDが独自に計画を策定する(Minh, 2006)ということだが、VFAではVFAがMOTと共に需給計画の原案を策定して3者会合に持ち込みそこで検討するが、VFAの案がほぼそのまま3者会合で受け入れられ、首相官邸に提出される(Hue, 2006)ということであった。Youngら(2002)も1990年代半ばの状況を取り上げながら、MARDとMOTが輸出量の計画策定については関与している(p.23)との報告であるが、その後の自由化の流れで実務者の動向が重要視される状況に変化しつつあると受け止められる。

首相官邸から需給計画を公表

このコメ需給計画の原案を首相官邸に提出する（前出の図 3.2 を参照）。首相官邸ではこの案を元に独自に調査もするが、上がってきた提案をほぼそのままに受け入れて、当年度の輸出量を発表する。つまり、最終の決定権者は首相であり、首相官邸が自らの責任に於いて公表。各関連の省庁に通達する。VFA も改めて通達を受けるわけであるが、VFA のメンバー各社はすでにマスコミを通じて今年度の輸出量の確定については情報を得ており、それに応じてコメの輸出事業を進める。

この需給計画は、国内ではコメが年 3 回生産されるため、各生産期ごとに見直しをする。生産が当初の予定より多い場合は輸出量も拡大する方向で修正する。この修正は最終的には 12 月にその年度の輸出量が決まり、輸出業者は最後の調整をそこで図る。年度内における輸出量の修正は、特に輸出業者から VFA を通して増加する方向で要請してくることが多い。

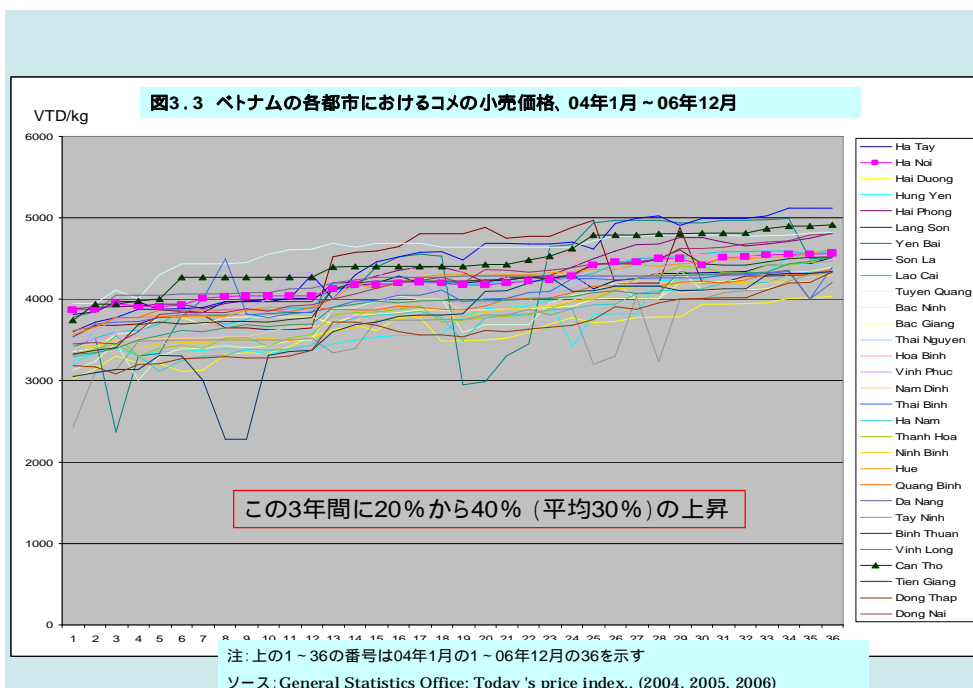
ところで、2006 年 11 月 12 日に首相官邸がいきなりコメの輸出禁止を打ち出してきた。これは、国内のコメ卸し売り相場が徐々に値上がりを見せ（図 3.3）折からの病害虫の影響で供給量も当初の予想より少ない見通しであることから、コメ輸出の一時停止を首相が命令したものだ。しかし、その後は新しく契約するものに限って禁止し、既契約のものはそのまま契約を履行して良い、ということとなった。この措置は第一期作の収穫が見込める 2007 年 3 月ごろに解除される見通しであるが、これは国内のコメ価格高騰が政治問題に発展しかねない、と現政権が懸念していることを物語っている。

こうしたコメの輸出規制は 1994 年にも発動されたことがあるが、輸出規制の発動と共に国際市場はさらに上昇し、発展途上国にとっては外貨獲得のせっかくの機会を逸してしまうことになる。国内のコメの価格上昇がどれほどの政治的インパクトを持つか、国内でも意見が分かれている。コメは以前ほどにはインパクトを持たなくなっている可能性もある。

3.4. 輸出量及び輸出価格の把握

各社のコメ輸出量は、割り当てがないため自由な競争となる。輸出会社はコメ輸出を一件ごとに VFA に届け出をし、VFA から輸出の承認を得なければならない。この承諾書をもって税関を通じて輸出することができる。この VFA の承認はほぼフリーパスであるが、この制度があることによって VFA ではコメ輸出の状況を把握することができる。

ところで、輸出が競争であるために輸出業者は輸出価格を必要以上に引き下げて輸出する場合がある。このような場合は VFA は注意を促すことができる。しかし、これは注意だけであり、業者はそれに従う必要はない（Hue, 2006）。これに関し、Young



ら(2002)はMOTとコメ輸出会社が共同で最低輸出価格を取り決める(p.23)としている。また、2007年のような、病害虫で需給が逼迫し、かつ、国際相場も高騰している場合にはどうしても輸出業者も輸出に力を入れ、国内の供給が品薄になる場合も想定されるが、そのような場合はVFAが「輸出許可を与えない」(Viet Nam News, 2007)ということもあり得るようだ。よって、通常はVFAはコメ輸出業者に対し強制力は執行しないが、需給が逼迫した場合にはその限りでないと解釈される。

輸出業者はVFAから発行された承諾書を持って税関に輸出を申請し、そこで許可を受けて輸出となるが、こうして税関に於いてもコメの輸出量を把握することになる。このようにしてコメの輸出量はVFAと税関の両方でコメ輸出量の累積が関係機関に報告されることになる。また、それは輸出業者にも報告され、本年度におけるこれまでの輸出の進捗状況を見ながら今後の輸出を調整していくことになる。

前述のように、コメ輸出に於いては、各社への割り当てがないので、とにかく、国全体の輸出量が計画量に到達するまでは“早い者勝ち”で各社がコメを輸出していくことになる。

3.5. コメ輸出の流通経路

ベトナムのコメ輸出は、VFAがハノイではなくホーチミン市に位置していることから伺えるように、その多くが南部メコンデルタ地域産のものである。コメの主要な生産地帯は北部の紅河デルタ(RRD)と南部のメコンデルタ地域(MRD)であるが、MRDの農地面積は298万haでRRDのその4倍あり、コメの生産では全国生産量の半分以上を占める(前出の図1.4, 表1.3を参照)。輸出用のコメは「殆ど全てメコンデルタ地域で生み出された余剰米」(長, 2005, p.50)である。MRD地域は1970

年代後半から 1990 年代に水田開発が急速に進み、灌漑・排水共に改善されていった (Young, et al., 2002)。

この MRD 地域のコメの買い付けは図 3.4 に見るように、農家から買い付けるのは仲買人 (Assemblers) と個人経営の精米業者、及び国営企業 (SOE)、その他に販売するが、その割合はそれぞれ、83.1%、9.1%、及び 3.1%、その他 4.7%と、なっており、仲買人が買い付ける量が圧倒的に多い。また、買い付け業者は買い付けたその量の 89.5%を個人経営の精米業者に、残り 10.5%を国営企業に販売している。よって、個人経営の取扱量はメコンデルタ地域の流通量の 80%余りを取り扱う計算になる。さらに、この個人経営の精米業者はほぼ 50%を卸業者又は小売業者に、33%を国営企業に、残り 17%を他の精米業者に販売している。国営企業は精米業者からだけでなく、卸業者からも買い付けを行い、最終的には全流通量の 71%を取り扱うようになり、全流通量の 57% (国営企業取扱量の 80%) が輸出に向けられる (Hai, 2002, pp.88-94)。2000 年代に於いては、個人企業の輸出業者も現れており、2001 年の時点では全輸出量の 6.5% (前掲, p.90) を占めており、そのシェアも近年は無視できないものとなりつつある。

輸出業者による農家及び仲買からのコメの買い付けは、地域に関係なく自由で、どこの地域からでも買い付けができる。輸出そのものは VFA の上位メンバー 25 社でほとんどを占める。その中でも最大のものが南部を基盤にしている国営企業の VINAFOOD2 で約 100 万トン を占める。その次が北部を基盤にしている VINAFOOD1 で約 60 万トン。次は 10 万トンから 20 万トンレベルの各企業となる。

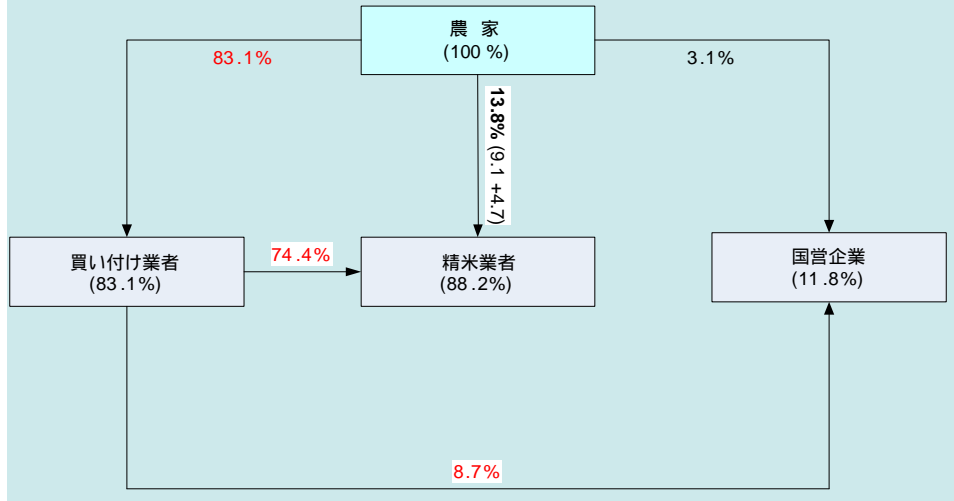
その主要企業の一つ、SAI (Saigon Agriculture Incorporation, サイゴン農業公社) は現在コメの輸出は 5 万トン程度であるが、今後はコメの輸出量を 50 万トンまで増やしていきたい (Phuong, 2006) と、強い意気込みを見せていた。日本にも市場を獲得したい意向である。SAI は農業関連では農産物の販売だけでなく、農薬の製造販売も行っており、国内最大規模の国営企業で、8,600 人を雇用している。大型の精米所を所有しているが、新たな精米所を建設予定である。また、個人企業の Phoenix Commodities 社 (本社バンコク) は 2005 年には約 30 万トン を輸出している。

4. ベトナムのコメ需給シミュレーション

4.1. ベトナムのコメ消費量予測

ベトナムの一人当たり消費量はわずかながら減少の傾向を見せている。特に、加工向けなどの消費量を除いた、主食としてのコメの消費量は急激な減少を見せていると一般に見られている。こうした傾向を背景に、全消費量の一人当たりの今後を予測してみた。

図3.4 メコンデルタ地域におけるもみの流通経路及びその割合



ソース : Hai(2003).

新「5 力年計画」ではコメの生産や品質改善、輸出に関してはそれなりの対策が示されているが、コメ消費の変化にはほとんど注意が払われていない。これは、以前と同様に、ベトナムが未だに国内のコメ消費に関しては十分な供給体制に至っていないという前提で農業問題、食料問題を捉えているという一面を覗かせているようだ。しかし、アジアの多くの国が経験しているように、コメの消費減退は予期せぬ早さでやってくる。国内のコメ消費減退がその速度を増してくると、コメの市場価格が低迷し、生産者を圧迫することになり、生産者の不満を増幅することになる。すでに、その傾向は見られ、農村地帯と都市との所得格差が社会問題化しつつある。

ベトナムのコメ消費量については、現地では減少しているという声が強い。「コメの一人当たり消費量はここ数年間で 170kg から 150kg へと 20kg も減少している。これは全国的な平均だ。」(Hai, 2006) とする説もある。また、「コメの消費は全国的に減少してきており、よって、コメ価格の上昇はそれほど大きな問題ではない」(Son, 2006) との意見もある。

FAO のデータによると、ベトナムのコメ消費は食用としているものが国内全消費量の 91% を占めている (FAOSTAT のデータから算出)。この食用としているコメの一人当たり消費量は 2001 年の 163.5kg (精米換算) をピークにわずかながら減少を始めており、2004 年には 161.1kg に減っている (表 4.1)。年によって増減があるので、このような減少傾向をよりスムーズ化して減少率を試算すると年に 0.11% という極めて緩い速度で減少しているようである。この減少率をシナリオ 1 とし、この減少率が 2 倍 (0.22%) 及び 3 倍 (0.33%) に増大した状況をシナリオ 2, 及びシナ

リオ3とした。また、アジア諸国においては、市場価格の変化がコメ消費に与える影響は極めて小さいため、ベトナムにおけるこの予測においては市場価格の変化は消費量に影響を与えないと仮定した。

表4.1 ベトナムにおける一人当たりの主食用コメ消費量

	kg/人
2000	158
2001	163
2002	157
2003	161

ソース:FAOSTAT

この3つのシナリオを元に2006年の一人当たり全消費量218kgをベースに2050年まで予測したものが図4.1(一人当たり消費量)と図4.2(総消費量)である。これによると、10年後の2017年における一人当たり全消費量はそれぞれ215.5kg、212.9kg、及び210.4kgと計測された(表4.2)。ただ、中国のコメ消費減少率が近年は増大していることから分かるように(図4.3)ベトナムの今後の減少率はシナリオ3の0.33%には近年中に達すると想定される。よって、2017年の消費量はこれら3つのシナリオの中ではシナリオ3が最も可能性が高いと想定し、一人当たり消費量は210.4kgになるとした。よって、この場合のコメの国内総消費量は、2017年の人口が9,170万人に増大していると想定されるため、1,980万トン(精米換算)と推測される。

図4.1 ベトナムの一人当たりコメ消費の過去と予測('60-2050) VIETNAM PER CAPITA RICE CONSUMPTION, 1960-2050

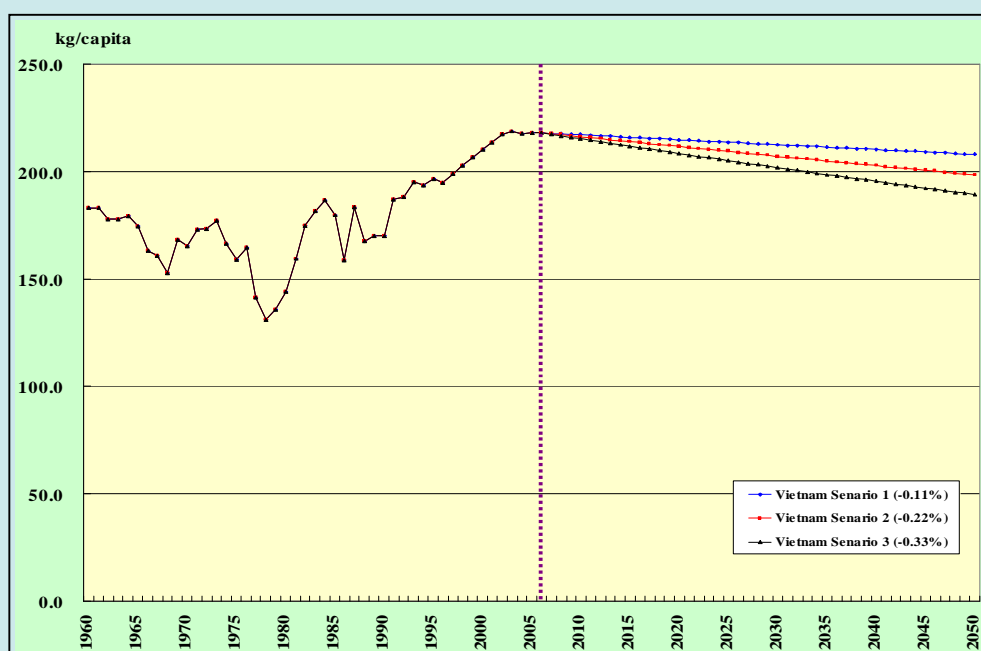


図4.2 ベトナムのコメ総消費量の過去と予測('60-2050)
VIETNAM TOTAL RICE CONSUMPTION, 1960-2050

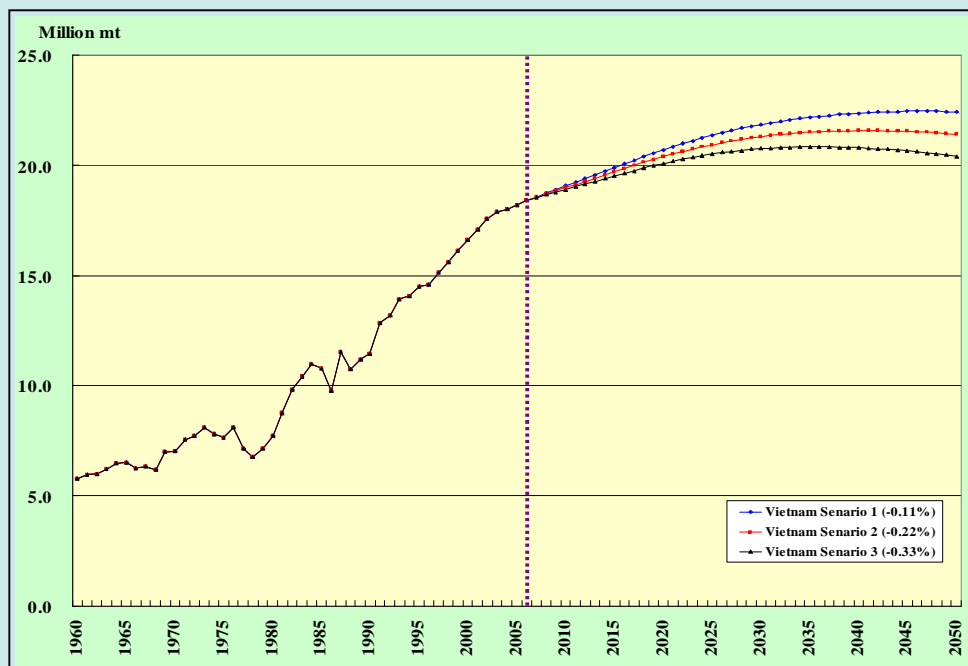


表4.2 ベトナムのコメ生産量、消費量、輸出量の予測、2017年

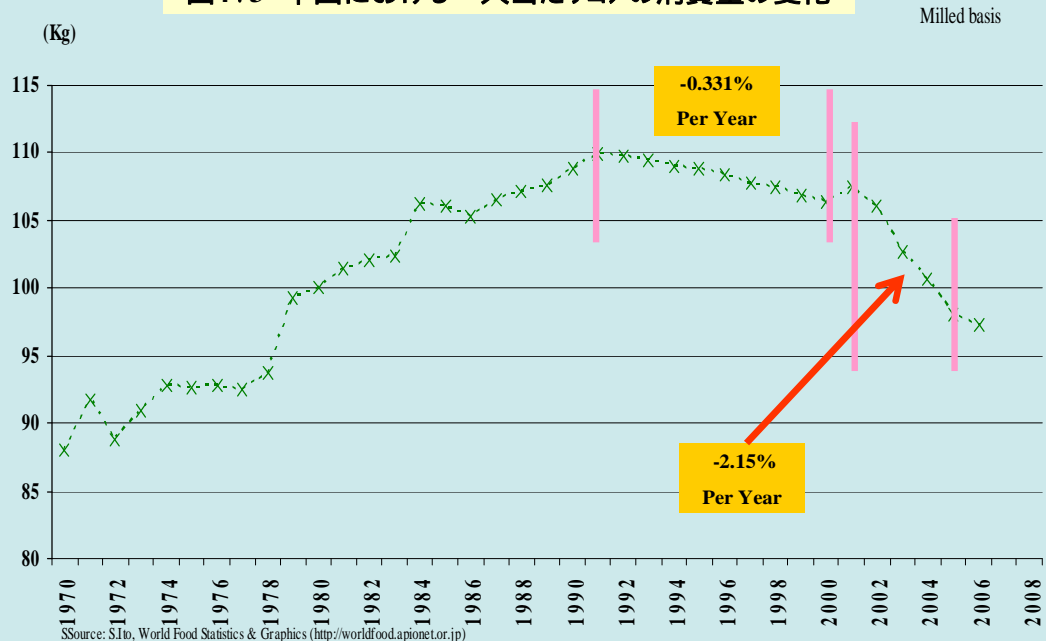
	一人当たり消費量, kg			人口, 百万人	総消費量, 百万トン			生産量	輸出量
	シナリオ 1	シナリオ 2	シナリオ 3		シナリオ 1	シナリオ 2	シナリオ 3	百万トン	百万トン
2007年	217.8	217.5	217.3	85.1	18.6	18.5	18.5	22.3	3.77
2017年	215.5	212.9	210.4	91.7	20.2	20.0	19.8	25.5	5.75

注1: 生産量の予測は2007年を2005年実績の2200万トンから1.5%増、それ以降2017年まで年1.5%増産とした。

注2: 輸出量の予測は生産量からシナリオ3の総消費量を差し引いたもの、在庫量は変化しないと仮定した。

注3: 輸入量は無視した。

図4.3 中国における一人当たりコメの消費量の変化



Source: S.Ito, World Food Statistics & Graphics (<http://worldfoodapionet.or.jp>)

Original data sources: USDA: PSD Online, November 2006; USBC: International Data Base, August 2006.

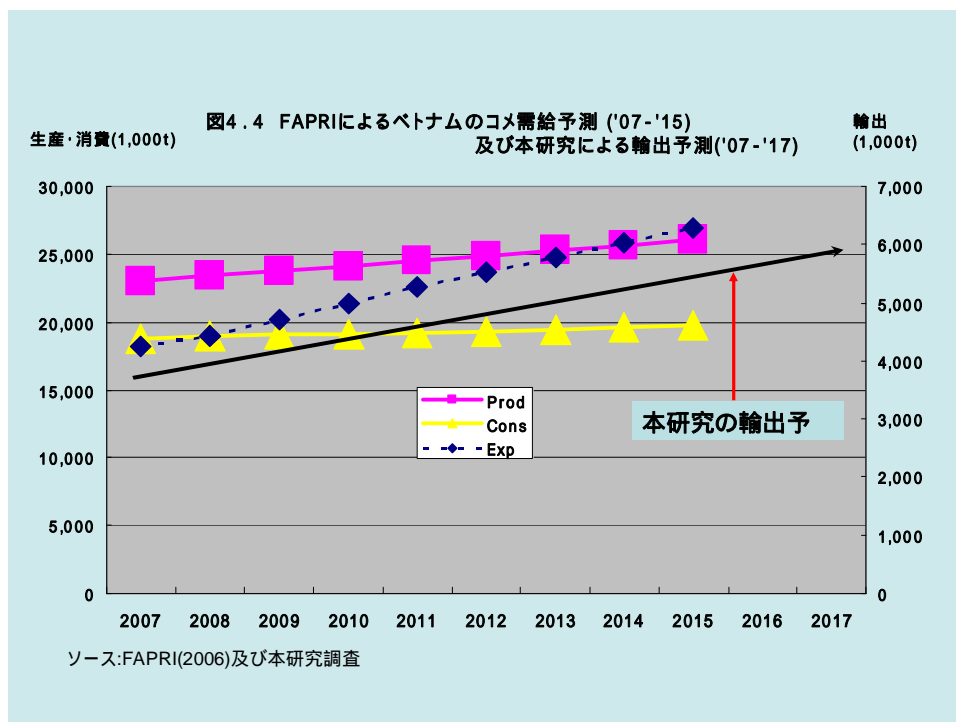
ソース: 伊東(2006)

4.2. ベトナムのコメ生産量予測

新「5 年計画」によると、前述のように稲作の生産面積は今後は拡大しないという方針である。ただ、面積は拡大しないとしても、単収の増大は十分に可能性がある。2000 年代においても年率 2% でコメの単収は増大している。ベトナムの平均単収は 2005 年で 1ha 当たり 3.03 トン（精米換算、USDA のデータによる）という実績である。この単収は先進国の 5 トンのレベルから見ると、まだ低い。国内の経済発展に支えられた今後の多方面における国内技術の改善により、単収が増えることは十分に予想される。よって、控えめながら、コメの生産量を今後は年 1.5% 増加すると仮定して計測した。それによると、2017 年の生産量は 2,550 万トン（精米換算）と予測される（前出の表 4.2 を参照）。

4.3. ベトナムのコメ輸出量予測

上記の生産量から消費量を差し引いたものが輸出量として算出される。それによると、10 年後の 2017 年のベトナムのコメ輸出量は 580 万トンと予想される。ただ、これはコメの一人当たり消費量の減少速度が年 0.33% という極めて低い率で推移すると仮定したこと、さらに、コメの増産率が年 1.5% とこれもかなりの控えめな想定をベースに成り立つ数字である。一方、米国の FAPRI(2006)はベトナムの 2015 年のコメ輸出量は 630 万トンと予測している（図 4.4）。



ベトナムは 2004 年の輸出量が 517 万トンで、史上最高を記録したが、2006 年は

病虫害のために、500万トンを下回ることが予想されている。また、2007年の現地専門家の予測は1月の時点では450万トン（Viet Nam News, 2007）である。アジア諸国におけるコメの輸出量はあくまで国内の消費量をまかなったあとに余剰として可能となる、とされてきた。また、ベトナム政府は新「5カ年計画」の中でコメ輸出は「400万トン（精米換算）」（p.78）とうたっている。これはベトナム政府としては本音であろう。特に、この「5カ年計画」が作成される2005年から2006年にかけては、コメの国際価格はまだ低迷の時期から十分には脱していなかった。低い価格に甘んじる形の稲作からは脱却したい、という気持ちは十分に伺える。

しかし、農家のレベルで他の作物への切り替えについては新たな投資や生産者の教育も必要となり、簡単ではない。また、生産者にとっては以前と同じものを生産する方が容易であり、また、その農産物の価格が上昇すればなおさらである。国際価格の影響は無視できないものがあるのも事実である。2007年1月の国際相場は5%碎米で1トン当たり300ドルと、近年にない高値となっており、今後も上昇することが予想される。こうした中で、ベトナムの国内相場も上昇し、消費者にしわ寄せが来ているのも事実である。

しかし、コメの消費量が減少している中では国内価格の上昇による影響は心理的に以前より小さくなる。また、生産者の数が多い点では、コメの価格の上昇は歓迎される側面もある。こうした背景を考えると、政府は国内相場の動向に注目しながらも、国内の消費量を減らして輸出拡大に力を入れ、外貨の獲得に多少の重点を置く、ということは十分にあり得るであろう。また、2004年の500万トンを上回る輸出実績から見て、輸出業者は今後も少なくとも500万トン前後の取扱高を目指すであろう。

よって、2007年に於いても、ベトナムのコメ輸出量が500万トンを超えても決して驚くべき数値ではなく、また、将来に於いても、国内消費量がより速いスピードで減少した場合に輸出量はここで予測した数値よりさらに拡大することになるろう。

おわりに

ベトナムの国民性というのは勤勉、かつ合理的、そうして、人なつっこい。この性格で外部からの圧力に耐え、中国からの支配、フランスによる植民地時代、そしてベトナム戦争を乗り切ってきたのであろうか。ベトナム戦争の終結からドイモイ政策がスタートするまで、わずか10年。このような短い期間で世界の動きを察知し、政策を大きく転換した。そのような洞察力と経済発展の力を国民が有しているということであろう。コメを含む農業に於いても同じ発想の転換と努力の積み重ねが感じられる。

コメ生産流通に対する今後の政策については現在の生産量レベルを維持し、あとは品質の改善で対応する、と新「5カ年計画」で打ち出した。しかし、経済成長と共に国民の食生活も大きく変化しつつある中、コメの消費減が今後はベトナムのコメ経済を大きく変えていくことであろう。生産力の向上は今後も続くであろう。同時に、「5カ年計画」が強調する品質改善も当然ながら進められていくことであろう。そうして、コメ産業はそれにとどまらず、生産量を拡大し、国内のコメ消費減にも対応すべく、輸出を現在の500万トンレベルから維持・拡大していくことが十分に予想される。

* * 本稿は主に国際農林業協力・交流協会（JAICAF）の2006年度地域食料農業情報調査分析プロジェクトに依るものである。

参考文献

- 1 . Abdullah, Alias Bin, Shoichi Ito, and Kelali Adhana (2006): Estimate for Rice Consumption in Asian Countries and the World Towards 2050, Proceedings, Rice in the World at Stake, II, Okayama, Japan, March 10, 2006.
- 2 . CEG Facility/AUSAID (2004): Conditions of Establishing Commodity Exchange Models for Agricultural Products in Vietnam, Hanoi.
- 3 . Dinh, Nguyen Van and Bach Van Huy (2006): Development and Damage of the Black Bug *Scotinophora Lurida* Burmeister on Rice: Implication of Hybrid Rice in Hanam Province, presented at Science of Hybrid Rice, JSPS Asia-Africa Science Platform Program, Kyushu University, Fukuoka, Japan, November 16-17, 2006.
- 4 . Dinh, Nguyen Van (2006): Hanoi Agricultural University, Hanoi のキャンパスに於いて聞き取り調査、2006年11月30日
- 5 . FAPRI (Food and Agricultural Policy Research Institute, 2006): FAPRI 2006 Agricultural Outlook, website visited in January 2006, <http://www.fapri.missouri.edu/outreach/publications/2006/OutlookPub2006.pdf>
- 6 . General Statistics Office (2004, 2005, 2006): 'Today 's price index_, GSO, Hanoi, Vietnam
- 7 . General Statistics Office of Vietnam (2007): Monthly Statistical Information, website in Vietnamese (partly in English), visited on January 22, 2007 <http://www.gso.gov.vn/default.aspx?tabid=217>

- 8 . Hai, Luu Thanh Duc (2003): The Organization of the Liberalized Rice Market in Vietnam, Centre for Development Studies, University of Groningen, The Netherlands. ISBN 90-367-1835-X
- 9 . Hai, Nguyen Manh (2006), Ministry of Planning and Investment, Central Institute for Economic Management (CIEM): CIEM に於いて聞き取り調査、2006年11月30日
- 10 . Hue, Huynh Minh (2006), Deputy General Secretary at Vietnam Food Association (VFA): VFA に於いて聞き取り調査、2006年11月28日
- 11 . Huu, Bui Chi (2006): Impacts of Rice Technologies for High Grain Quality and High Productivity, presented at the World Rice Commerce 2006, Ho Chi Minh City, October 18-19, 2006.
- 12 . Ito, Shoichi, E. Wesley F. Peterson, and Warren R. Grant (1989): Rice in Asia: Is It Becoming an Inferior Good?, *American Journal of Agricultural Economics*. 71: 32-42
- 13 . Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) (2006): Current Situation and the Strategy for Rice Development in Vietnam, presented at the World Rice Commerce 2006, Ho Chi Minh City, October 18-19, 2006.
- 14 . Minh, Nguyen Anh, et al. (2006), Ministry of Agriculture and Rural Development of Vietnam (MARD), International Cooperation Department: MARD に於いて聞き取り調査、2006年11月30日
- 15 . Ministry of Planning and Investment, Government of Vietnam (2006), The Five-Year Socio Economic Development Plan: 2006-2010, Hanoi, March 2006, Visited on January 21, 2007.
http://www.ngocentre.org.vn/file_lib/sedp_edited_eng_16_3.pdf
- 16 . Phuong, Pho Nam(2006), Vice General Director, The People's Committee of Ho Chi Minh City, Saigon Agriculture Incorporation (SAI): SAI に於いて聞き取り調査、2006年11月27日
- 17 . Que, Nguyen Ngoc (2006), Deputy Director, Institute of Policy and Strategy for Agriculture and Rural Development, Center for Agricultural Policy (CAP): CAP に於いて聞き取り調査、2006年11月30日
- 18 . Son, Dang Kim (2006), Director General, Institute of Policy and Strategy for Agriculture and Rural Development (IPSARD): IPSARD に於いて聞き取り調査、2006年11月30日
- 19 . Young, Kenneth B., Eric J. Wailes, and Gail L. Cramer (2002): Vietnam's Rice

Economy: Developments and Prospects, Research Report 968, Arkansas Agricultural Experiment Station, Division of Agriculture, University of Arkansas.

- 20 . Viet Nam News (2007): “Despite pest infestations, rice export projection reaches 4 million tones,” January 23, 2007, website visited on Feb. 4, '07.
<http://vietnamnews.vnagency.com.vn/showarticle.php?num=01COM230107>
- 21 . VVG (2006); VVG Economic Indicators, website, visited in November 2006,
http://www.vvg-vietnam.com/economics_cvr.htm
- 22 . 伊東正一 (2006): 「世界の食料統計」、九州大学大学院農学研究院農政学教室ホームページ、閲覧日 2006 年 11 月
<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index-e.html>
- 23 . 伊東正一、Alias Bin Abdullah、蔡家声 (2006): 国際食料需給政策の新たな視点 --アジアのコメ需要減退を事例に --、農林業問題研究. 42(3):253-262
- 24 . 佐藤朋久、冬木勝仁 (2000): ベトナムのコメ輸出におけるジャポニカ米の位置、第 8 回ジャポニカ米・国際学術調査研究報告会及びシンポジウム資料、pp.74-78, 仙台、2000 年 3 月 3 日
- 25 . 長憲次 (2004): 『市場経済下ベトナムの農業と農村』、筑波書房、ISBN4-8119-0274-2
- 26 . 農林水産省・総合食料局 (2006): 米麦の輸入、ホームページ、閲覧日 2007 年 1 月 27 日
<http://www.syokuryo.maff.go.jp/archives/index.htm#class3>